



講演会の様子



講師 穴戸 文男 氏

放射線の健康影響について ～第7回リスクコミュニケーション講演会～

11月25日、東通村防災センターにて「第7回リスクコミュニケーション講演会（主催：東通村、協賛：東北電力㈱東通原子力発電所）」を開催しました。

原子力災害が発生したときに、村民の皆さんに冷静に行動していただけるよう、原子力に関する様々な知識を習得していただくために開催しています。

今回は、福島県立医科大学教授として、福島県の放射線調査に携わり、放射線の健康影響等に幅広く深い知識をお持ちの「穴戸文男 氏（東北放射線科学センター理事長）」をお招きし、ご講演をいただきました。

原子力発電所との共生による村づくりを目指し、今後も様々な取り組みを行って参ります。



寄贈いただいた“関野準一郎”氏の「尻屋崎」

版画家 関野準一郎 氏の作品寄贈 尻屋崎の壮大な風景を木版画で表現

青森県出身の版画家である関野準一郎氏の作品「尻屋崎(1980年)」を株式会社ブティックハルコ様(代表取締役 山元春子さん、専務取締役 山元美津男さん)より寄贈いただきました。

お二人は、以前より関野氏の作品が好きでコレクションしており、ブティック店舗向かいにはギャラリーハルコも経営しています。

今回寄贈いただいた経緯として山元さんは「この作品を見たとき、遠方から東通村(役場)を訪れた方の思い出に残るものになればと思い、寄贈しました」と話してくださいました。

寄贈いただいた作品は、来庁された方の思い出に残るよう大切に飾らせていただきます。

「圓流寺の六地藏」 新たに村の有形文化財に指定

村教育委員会は村の文化財保護審議会から答申された、圓流寺(砂子又)の六地藏を10月27日に村有形文化財に指定しました。2017年以来、12件目の文化財指定となります。

六地藏は、北前船で福井県から搬出された笏谷石(しゃくだにいし)という石材で作られています。1829年に坂本藤右衛門(さかもととうえもん)を中心として尻労・猿ヶ森・下田代・上田代・砂子又・小田野沢・老部・白糠の村民によって奉納されました。

194年間地域の信仰によって手厚く保護されてきた六地藏は、保存状態も極めて良好であり、近世の歴史・宗教・海運文化を示す貴重な文化遺産であることが高く評価されました。



村有形文化財に指定された「六地藏」